

間ならば、寝る七一―。

姑 夫―(或は妻)―母

甥 夫―(或は妻)―父

塩 白――辛――砂

銃 両手で銃を持ちかまえて、右手の人差

指で引金を引く身振。

鹿 頭の上右寄りに、左右両手を上下にし

て鹿の角の枝形を模写する運動。

仕方がない かまわない―諦める。

しかし 五指の指頭を前方にさし下に向け

た掌をくると上向けに反転させる。

叱る 指頭を上にした親指を前に押しつ

けるように突き出す。

叱られる 「叱る」の親指を自分の額の上

に押しつけるようにする。「叱る」の受身の

形をする。

時間(時刻) 右の手の親指と人差指。そ

の親指の方を(左の手に握らせて(左手の親

指と人差指の間に右の親指をさし入れ姿た

態)時計のネジを巻くように握られた親指を

軸にして人差指を廻転させる。右の人差指は

時計の針の廻る心得。「時計」の手まねにも

なる。

「今何時ですか」今―時間―いくつ。「い

くつは、右手の親指より順に五指を折って行

く。

「今は三時です」今―時間―三

式 掌を前に向け五指の指頭を上にした

両手を胸の前で前後に並らべて同時に五指を

曲げる。列席者が一同敬礼する様を模写した

もの。

始業 (イ) 習 教えるV始める。(ロ) 仕事―始め

る。

試験 「試みる」と同じ手まね。

地獄 鬼―国

仕事 掌を上向け、五指の指頭を左にさし

た右手、掌を上向け、五指の指頭を右にさした左手。この両手を腹の前で或間隔を置いて左右にし、同時に両手を左右に忙しげに往復させる。

事実 「ほんとう」と同じ手まね。

支出 「金銭」を表わした手まねを前へさし出す。

磁石 左手の拳（その手甲は左側に向け）の上に、指頭を前方にさした人差指の右手をのせ、その人差指を磁石の針の動くように左右に微妙な運動をさせる。

辞書 「本」の手まね（合掌の両手を本の形に開く）を、辞書の部厚さを表現するため合掌の手を横にねかして、右手（表紙）だけを重ねしく開く。

師匠 「先生」と同じ。

地震 五指の指頭を前方にさし、掌を下向けの両手を左右にびったりつけて、前後に揺

さぶる。

次女 第二に生れる一女性（葉指）。「第二」は第一（初め）と同じ要領で掌を下に向け五指の指頭を左にさした右手を右へ引くと同時に中指と人差指を残して他の三指を折り畳む、即ち二の致。

静か 掌を下に向け五指の指頭を左にさした右手を胸の下部辺りにつけ静かに下に圧え降して行く。心の静まる様。

自然に 「時の流」の手まねで、指頭を前にさした右手の人差指を右から左へ線を描いて移動して行く途中、静かに自然な調子で人差指の指頭を上をさして上げて行く。

思想 「思う」「考え」と同じ手まね。

地藏さん 石一仏一と手まねして、首にはた掛けをつける身振り。

子孫 「祖先」（参照）の場合とは反対に左手の男女を徐々に下降させて行く。